

# 講演会 & ライブ な日々 ⑱

古川 秀明

## 「子育て講演会なんだけど・・・」

子育て講演会によく講師として呼んでもらえる。

子育てにまつわる話をあれやこれやとするのだが、最近は聞いてくれる人の変化に驚くことがある。

時間帯にもよるのだが、現役のお母さんの数よりも、子育てを終えた世代の人の数の方が多いのだ。

別に悪い事でもないし、私がどうこう言うことでもないのだが、なんでこんなことが起きるのだろう・・・。

高齢化の問題もあるだろうけど、孫を育てるヒントを得る為に来ている人も結構おられる。

離婚率が上がって、子どもを連れて実家に戻ってくる娘さんが多いらしい。

彼女らも生きて行かなければならないので、仕事を探す。

また、少しでも良い条件を手に入れる為に、資格取得のための学校に通い出す。

その間、子どもの面倒は祖父母がみる。

幼稚園や保育所の先生によると、祖父母の送迎率は結構高いそうだ。

祖父母世代は一度子育てを経験しているので、楽々と育てられると思いきや、時代の流れが早くて、どうして良いか分からない事も多いみたいだ。

だいたい、小学生に携帯電話を持たせる段階で昔とは違う。

子どもの母親というか、祖父母の娘さん達は、安心して子どもを預けて仕事や学校に行ける。

しかも無料だ。こんな良いことはない。  
と、思っていたのだが、世の中そんなに甘くはない。

孫の面倒をみるなんて、まっぴらごめんという祖父母だって結構おられる。

特に3歳くらいから発達に問題を抱える子どもは、多動性と衝動性、それに不注意が目立ってくる。

目を離すとうさぎのような早さでどこかへ走って行く。

昔のような体力はないが、孫に万が一のことがあったら大変なので、息をきらしながら追いかける。

そんな毎日が続いたら、そりゃ悲鳴もあげたくなるのだろう。

そんな訳で、同居の解消を望む祖父母も現れる。

それはそれで仕方がないことだが、子育てサポーターを失った若い母親による虐待が始まることもある。

仕事、子育て、家事を毎日こなすのはなかなか大変だ。

子育てサポーターなしではやってられない。

頼みの綱である祖父母の援助がないと、困った事になることも多い。

農業が主流の時代なら、孫の面倒は祖母がみて、嫁は農作業の労働力としての役割をこなせば良かった。

また、祖父母が縁側で孫の相手をするという、ファンタジーも成立した。

しかし、今は少し事情が違う。

令和になり、子育てや孫育てにも一工夫必要なんだと思う。

その解決方法は私のような未熟者には分からなのだが、変えて良い事と、変えてはいけないことがあることを覚えておきたい。

シンガーソングライター  
ふるかわひであき